

## 議題2 スマートフォン等の適切な使用に向けた取組について

令和2年1月 総合教育会議

◆ 市長より、児童生徒のスマートフォン等の利用実態やルールの必要性について言及。



- ◆ 教育委員会事務局内に「小中学校の携帯電話・スマートフォン等対策検討WG」を設置。
- ◆ 児童生徒のスマートフォン等の使用状況を把握し、その過度な利用を抑制し、有効な活用方法を推進するための一定のルール化を検討。

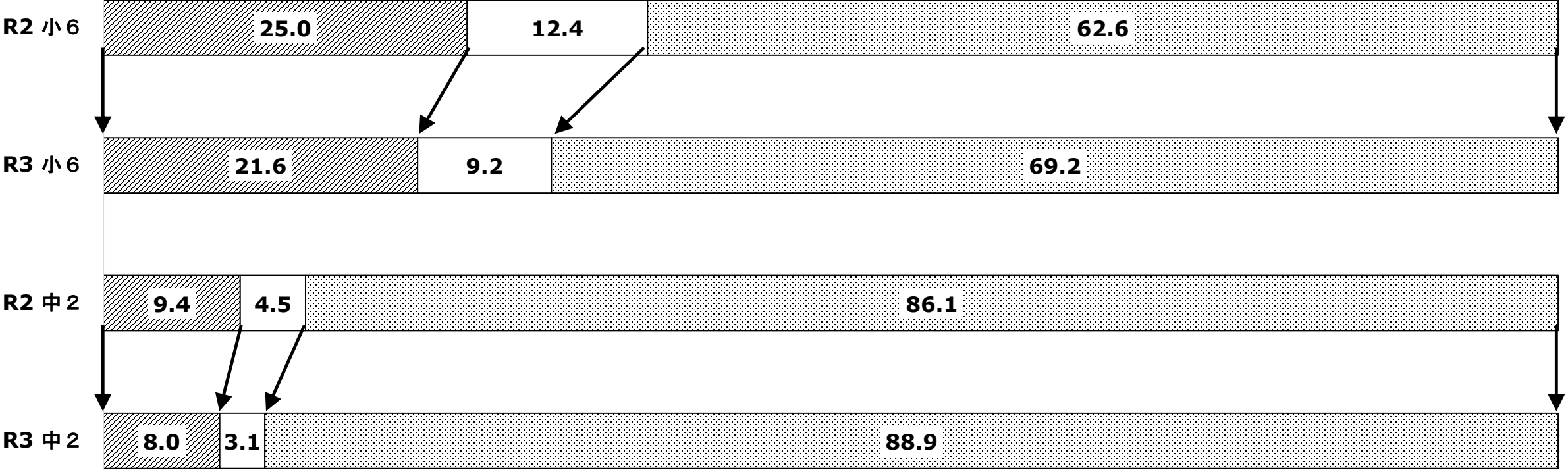
⇒ 児童生徒を対象としたアンケートを実施

○ 実施期間：① 令和2年7月（臨時休業期間明け直後） ② 令和3年3月（年度末）

○ 対象者：① 大阪市立 小学校 5,6年生 731人・中学校 1～3年生2,571人 計 3,302人  
② 大阪市立 小学校 6年生 17,062人・中学校 2年生14,817人 計31,879人

# アンケート調査の結果

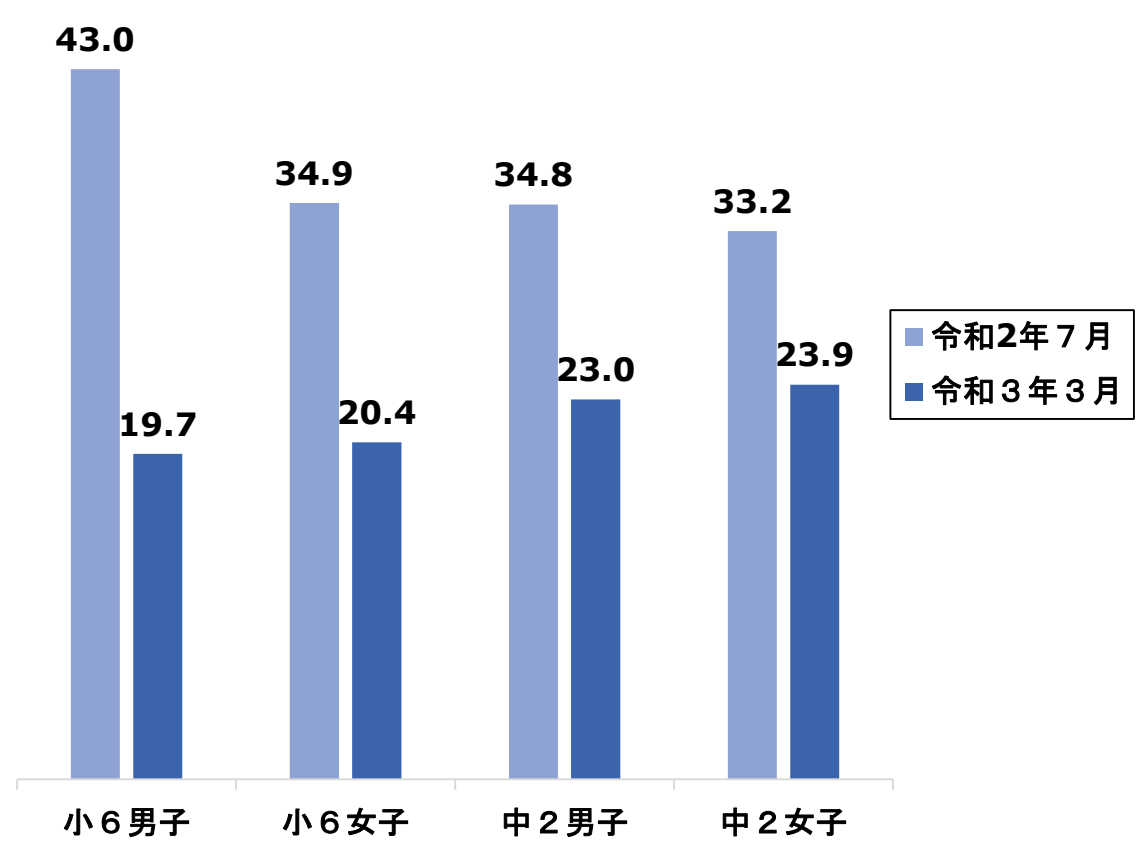
携帯電話・スマートフォンの所持率



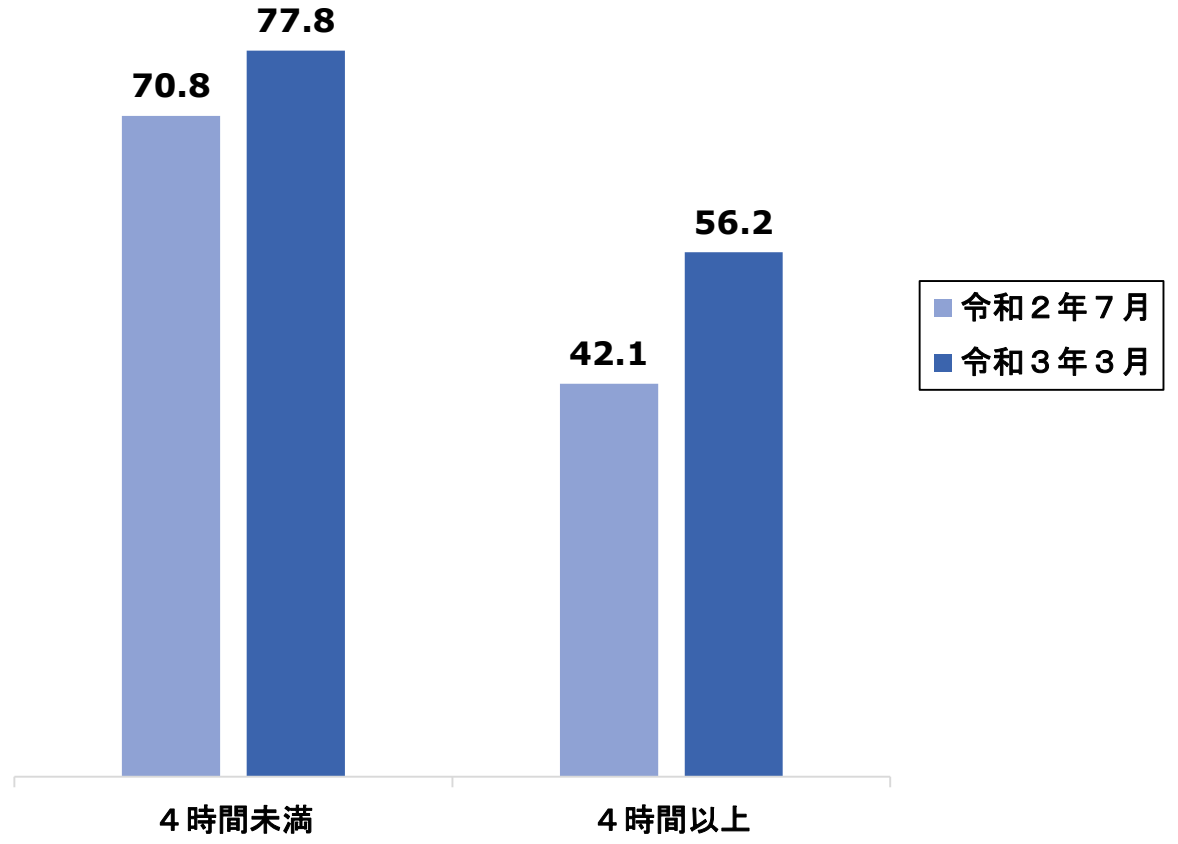
■ 所持なし □ 携帯電話 ■ スマートフォン

# アンケート調査の結果

## ネット接続時間が4時間以上の児童生徒 (%)

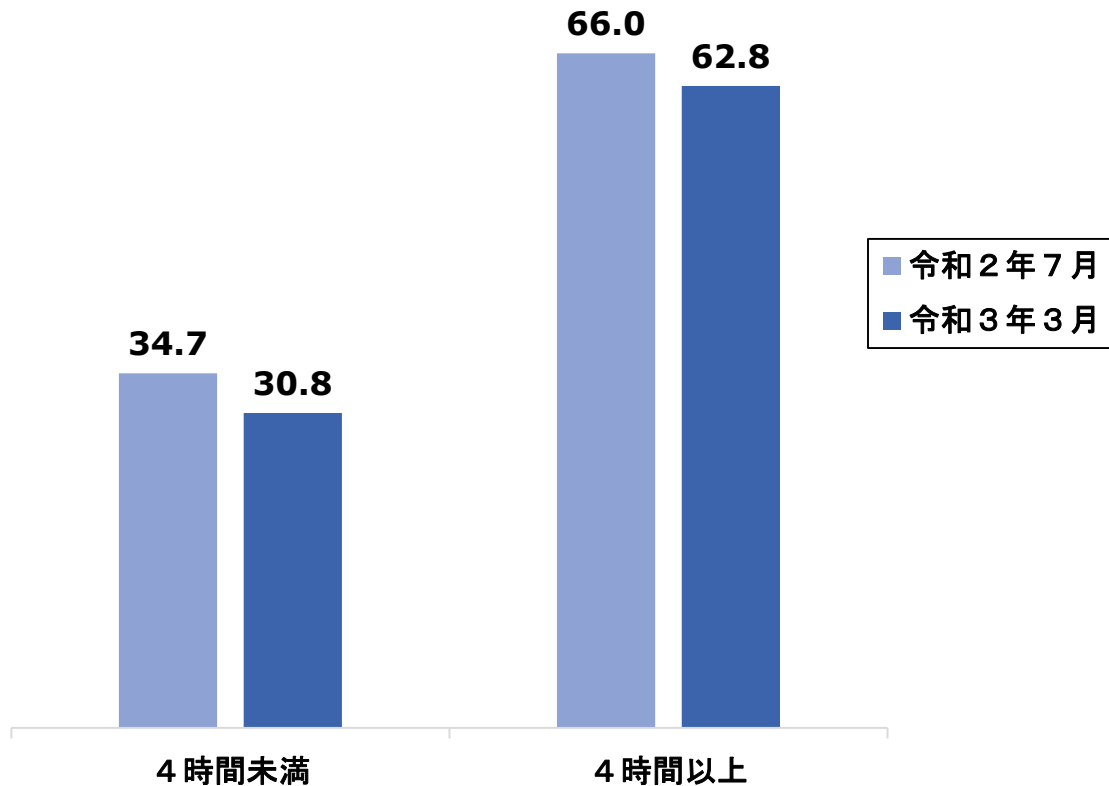


## 朝食を必ず食べる (%)



# アンケート調査の結果

就寝時刻が12時以降の児童生徒 (%)



## ネット使用時間と生活習慣

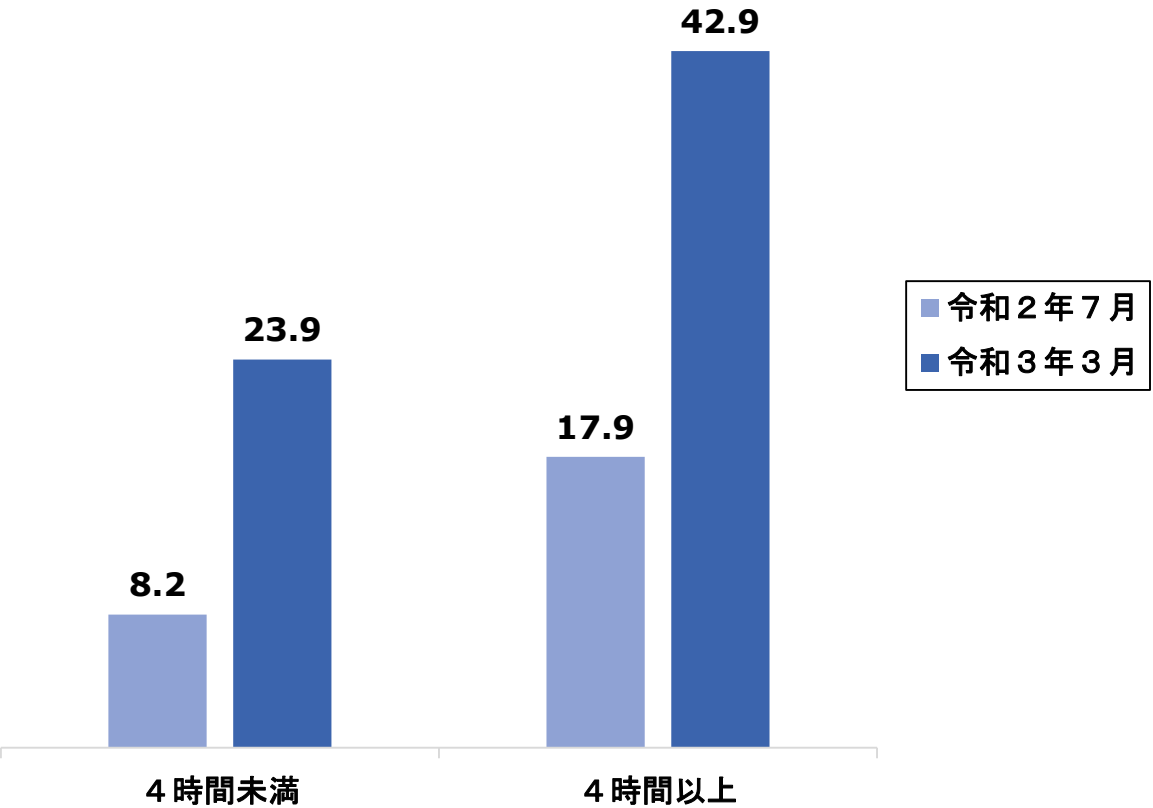
- ・ 4時間以上、ネット接続する者が減少
- ・ 朝食を食べる者が増加
- ・ 就寝時刻が0時以降の者が減少



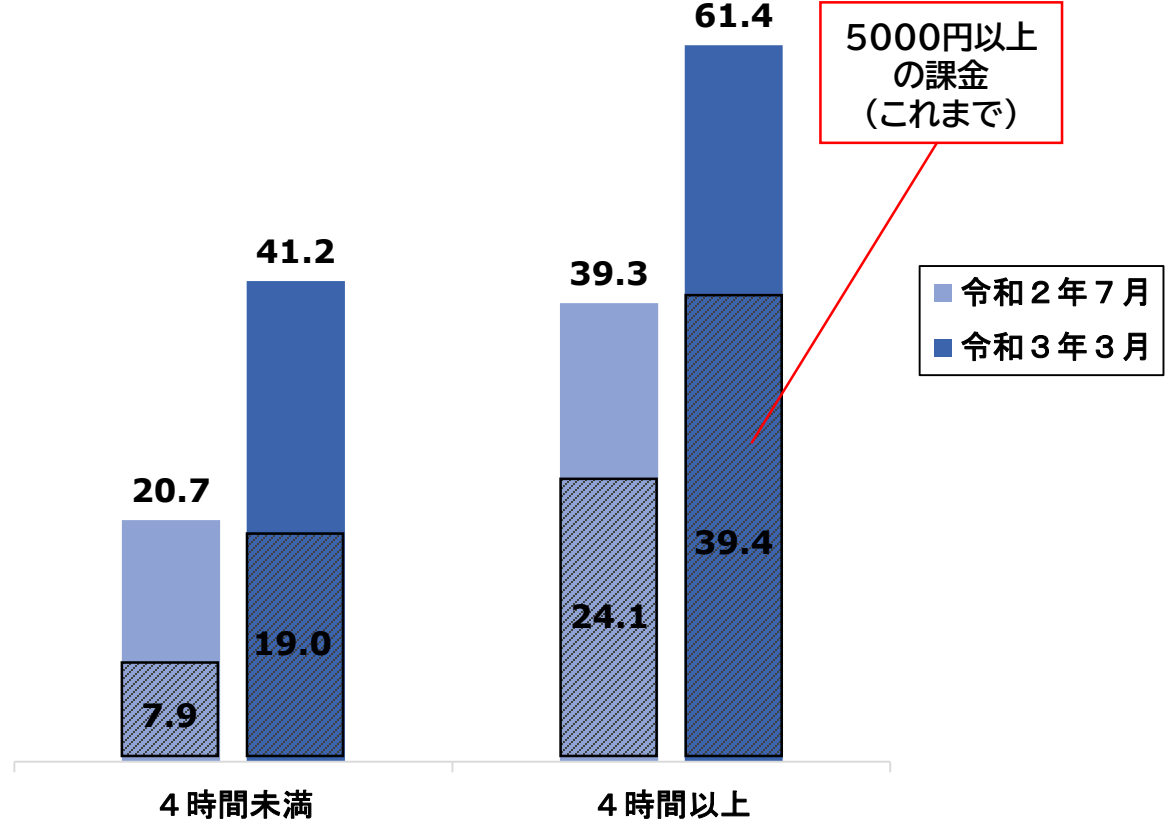
臨時休業期間明けよりも若干ではあるが、生活習慣等については改善しつつある。

# アンケート調査の結果

## ネット上でケンカの経験がある児童生徒 (%)

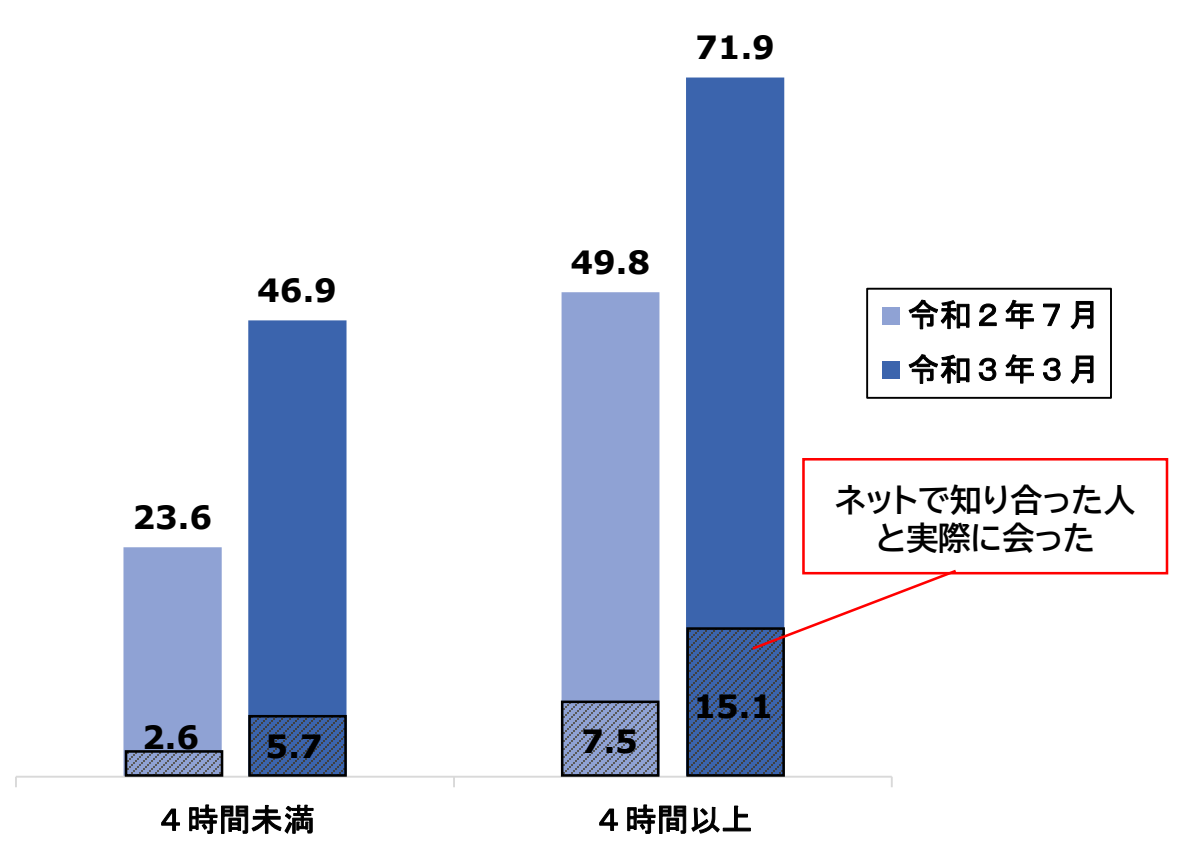


## ネット上で課金経験のある児童生徒 (%)

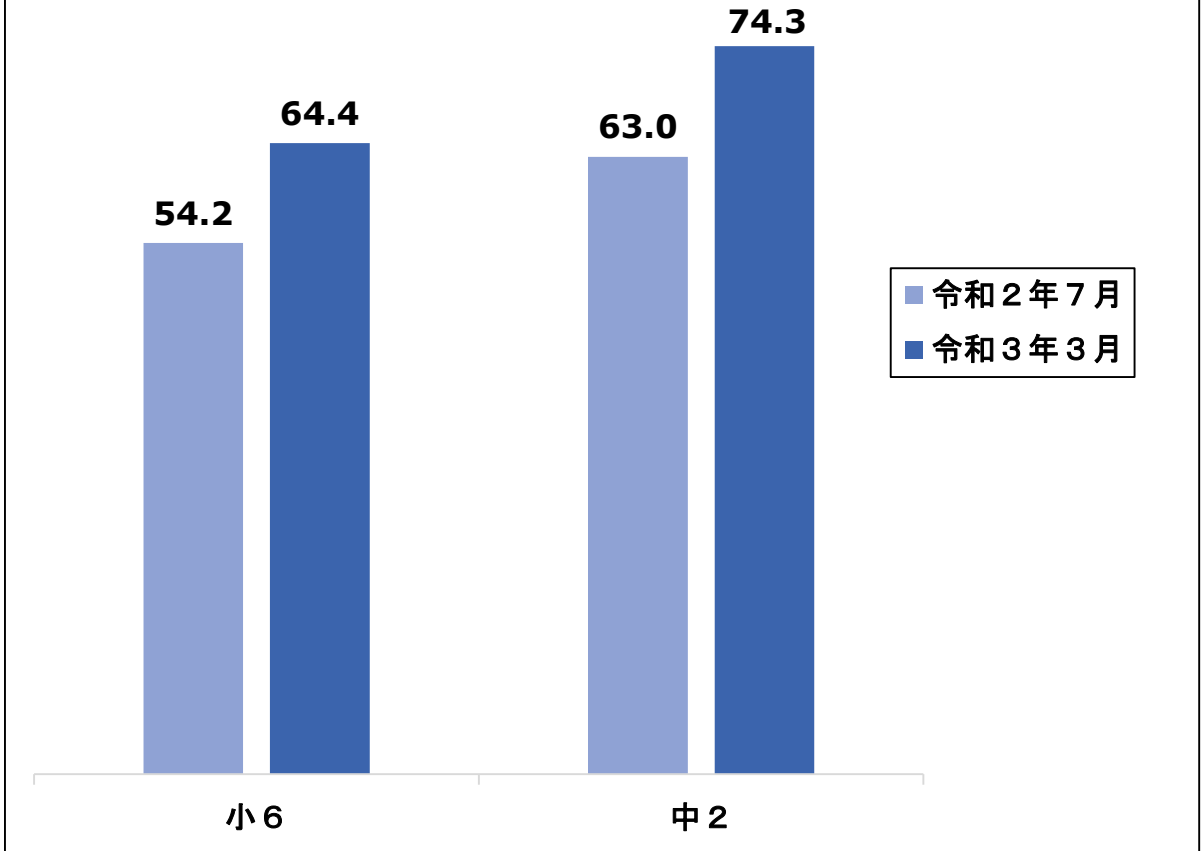


# アンケート調査の結果

## 面識のない人とSNS等でやりとりの経験がある児童生徒 (%)

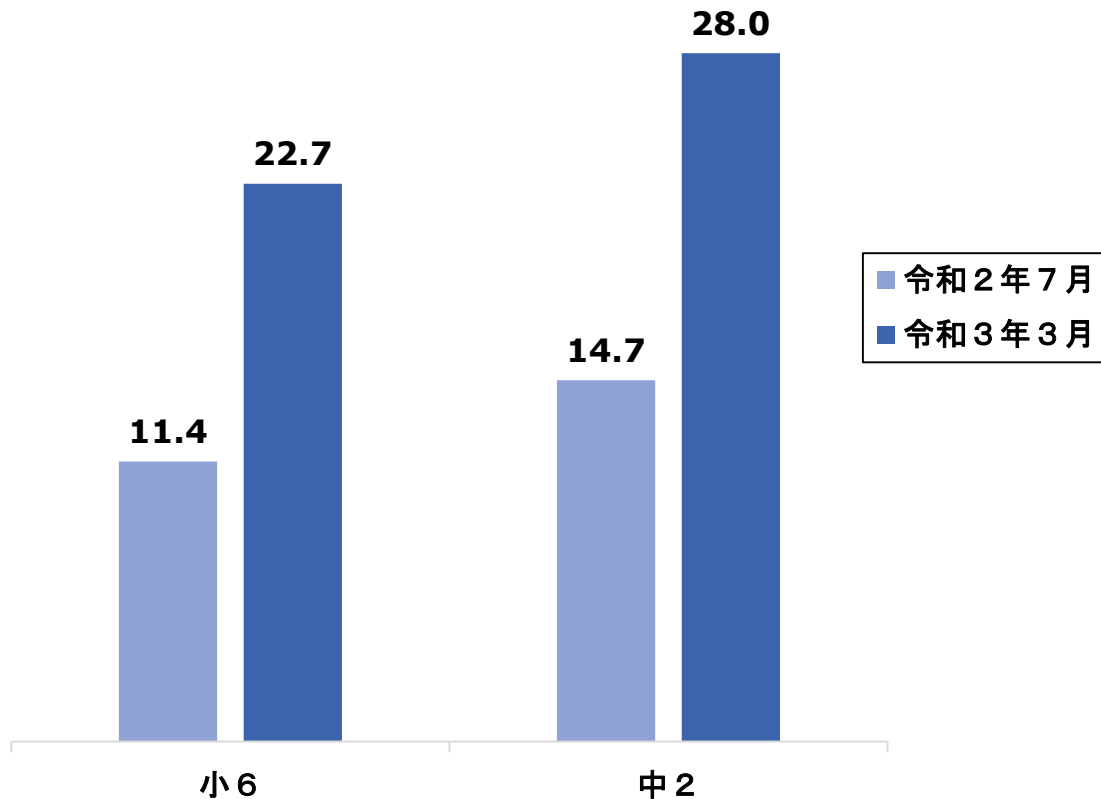


## 家で1番することがネット (%)



## アンケート調査の結果

ネット依存傾向がある児童生徒（％）



### トラブルの経験等について

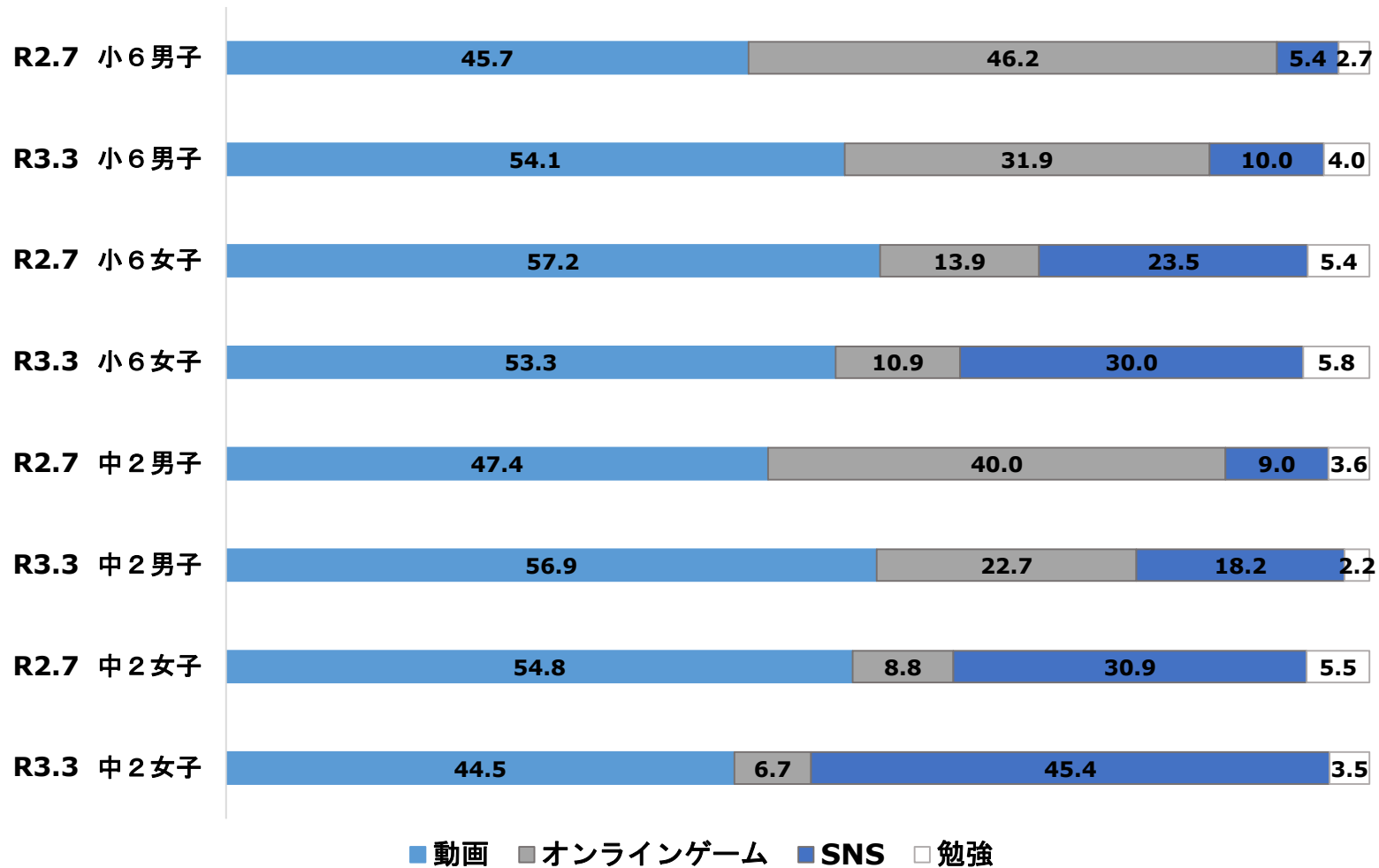
- ・ ネット上でのケンカ経験が、2倍以上
- ・ 課金の経験のある児童生徒の大幅な増加
- ・ 課金が5000円を超える児童生徒も増加
- ・ 面識のない人とのやりとり経験の増加
- ・ 家で1番することがどの学年でも「ネット」
- ・ ネット依存傾向にある児童生徒が増加



「ネット」に関するトラブルが激増

# アンケート調査の結果

## ネットで1番していること (%)



### ■ 小6 男子

- ・ 動画視聴、SNS 増加

### ■ 小6 女子

- ・ SNS 増加

### ■ 中2 男子

- ・ 動画視聴、SNS 増加

### ■ 中2 女子

- ・ SNS 増加



# ネット依存傾向を測るための指標

## キンバリーヤング博士のインターネット依存度テスト「DQ」

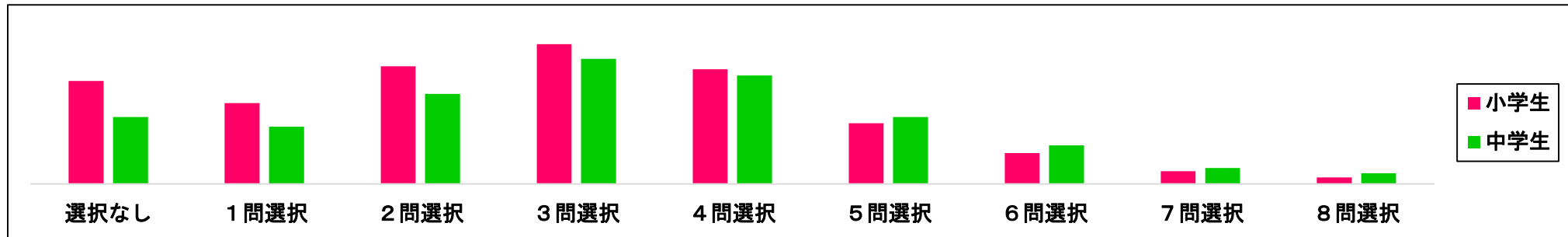
- 厚生労働省研究班が2017年度に実施した全国調査に採用
- 「はい」と答えると1点を付与し、0～8点に分類。
- 点数が高い方が依存傾向が高いと仮定。

※キンバリーヤング博士  
インターネット依存症やオンライン行動についての専門家であった心理学者。

**判定基準** : 該当数 2 以下 適応使用者  
                  該当数 3～4 不適応使用者  
                  該当数 5 以上 ネット依存が疑われる

### 【設問】

- ① ネットに夢中になっていると感ずることがある
- ② 満足するためにネットする時間を長くしたいと思うことがある
- ③ ネットの時間を減らそうとしてうまくいかないことがある
- ④ ネットの時間を短くしようとするとうち着かなかつたりイライラすることがある
- ⑤ 予定していたより長くネットをしてしまうことがある
- ⑥ ネットのせいで人間関係がうまくいなくなつてしまったことがある
- ⑦ ネットに夢中なのを隠すために家族や友達にうそをついたことがある
- ⑧ 不安や落ち込みから逃げたくてネットを使うことがある

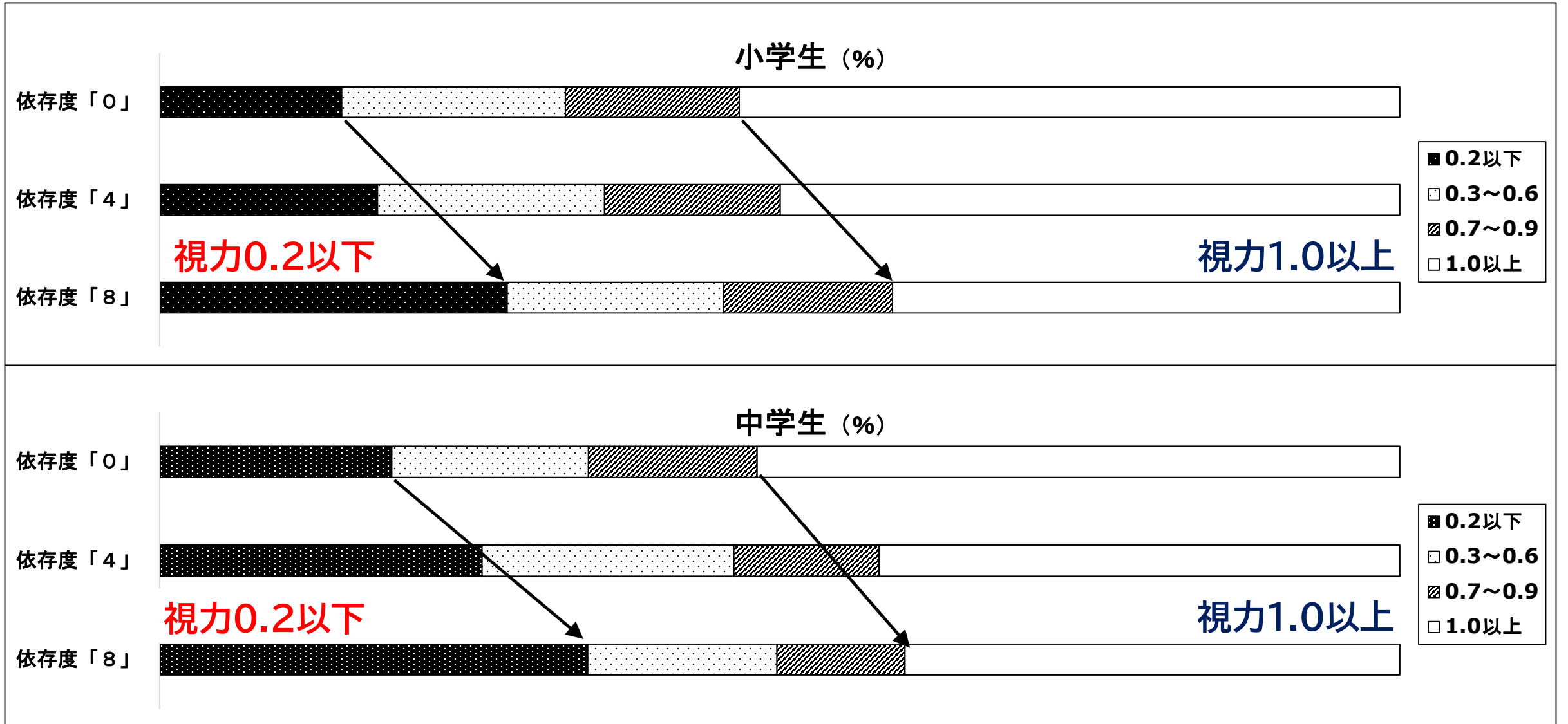


低

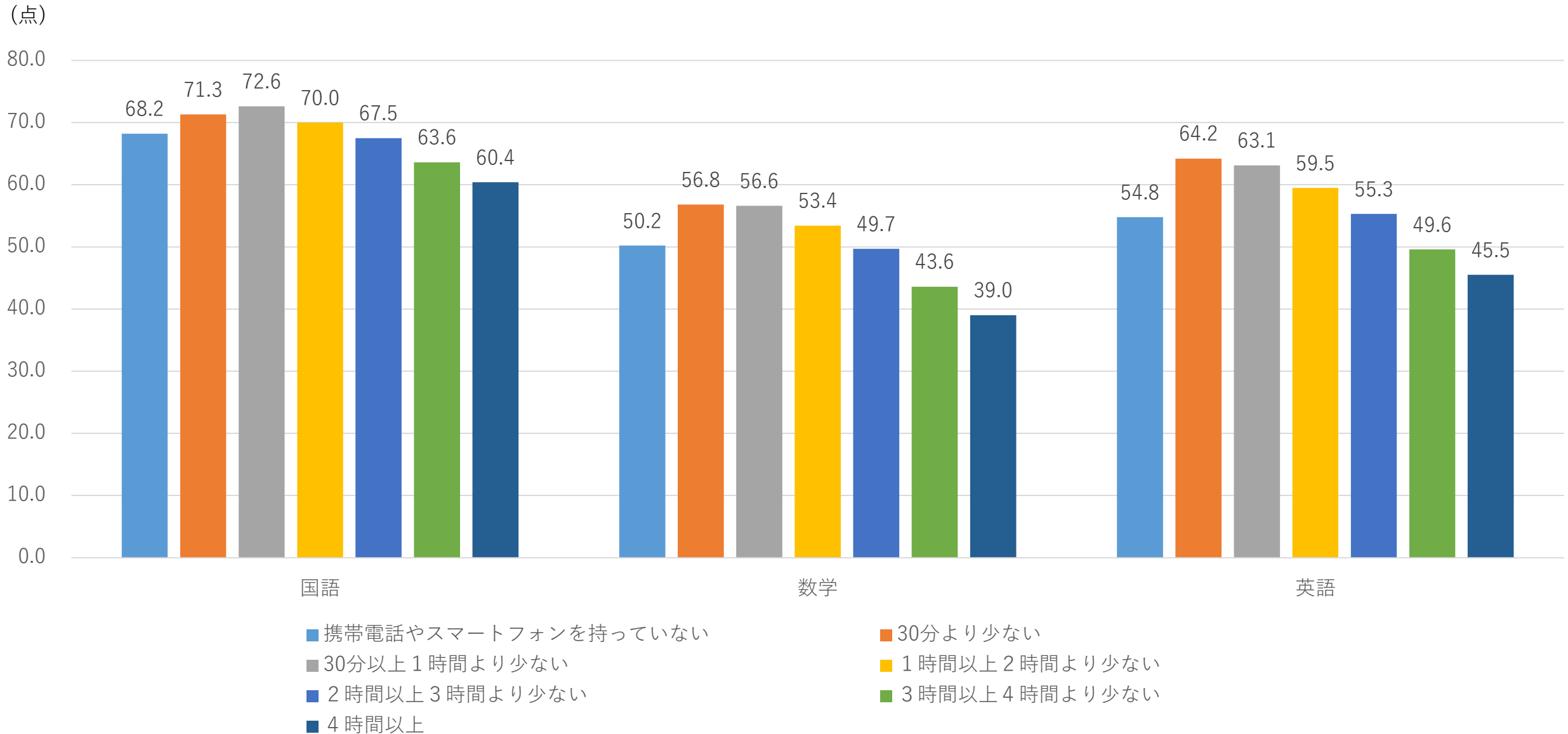
依存傾向

高

# ネット依存傾向と視力の関係



# 令和3年度 中学生チャレンジテスト（3年）生徒アンケートと学力のクロス分析



# 大阪市スマホサミットの開催

## 令和2年度 第1回 スマホサミットの概要（令和3年1月23日開催）



- ◆ 当日は各教育ブロックの代表8校が参加
- ◆ テーマ 「スマホの依存性について」  
⇒ ブロックの生徒会交流会で話し合ったことについて報告し、その内容をもとに議論
- ◆ 【生徒からの意見】  
⇒ ・ 一方的に否定したり規制したりしないでほしい。しかし、不安は感じている。  
・ ルールは必要だと思うが、自分たちの考えも聞いて、ルールのことを考えてほしい。  
・ しっかり話し合うことが必要。  
・ まだ自分たちに判断できる力はない。しっかり判断できるように学びたい。  
・ 学校への持込みは、しっかり判断できるようになってからのほうがよい。

## 令和3年度 第2回スマホサミットの概要（令和3年11月20日開催）

### 【児童生徒からの提言】

◆ネットの依存性をなくすために

- ・保護者等の協力や、**使用時間** を含めた使い方等に係る **ルールの必要性**

◆ネットをかしこく使うために

- ・デメリットや **危険性** について理解を深める必要性
- ・SNS等で **人間関係のトラブルを防ぐ** ため、相手の状況を配慮する必要性

### 【大阪市スマホサミット ネットスローガン】

- ① **人間関係** 「言葉のトゲをなくそう ～サボテンからタンポポへ～」  
⇒ ネットでのやりとりは表情が見えない分、言葉の使い方に注意が必要
- ② **使用時間** 「戻せない 後悔のない ひとときを」  
⇒ スマホ、ネット使用に費やす時間に対する注意喚起・ネット以外においても後悔のない時間の過ごし方を考えることが大切
- ③ **危険性** 「再確認 ～その情報 ほんまにあってる？～」  
⇒ 手軽に入手できる情報を簡単に信用せず、事実であるかを確認することで危険を回避

### 【1】各小・中学校へスマホサミットの結果を展開

- ◆スマホサミットで決まったスローガンについて周知。 ①人間関係 ②使用時間 ③危険性
- ◆スマホサミットでの議論内容等、児童生徒が考えるための情報を提供。
  - ・大阪市スマホサミット活動報告書
  - ・当日発表資料
  - ・スマホサミット新聞（代表校が作成）
  - ・アンケート集計結果
  - ・チャレンジテスト分析結果等
- ◆PTA協議会から保護者に向けた発信

### 【2】各小・中学校での取組を展開

- ◆スマホサミットでの議論内容をもとに、各校において児童生徒自身が考える機会をもち、スローガンで取りあげた3観点について、**自校の「使用ルール」を策定**する。
- ◆そのほか、学校独自のスローガンを作成するなど、学校の実情に応じた取組を進める。

 家庭へも学校の「使用ルール」を周知し、家庭での使用に関する話し合いに繋げる。